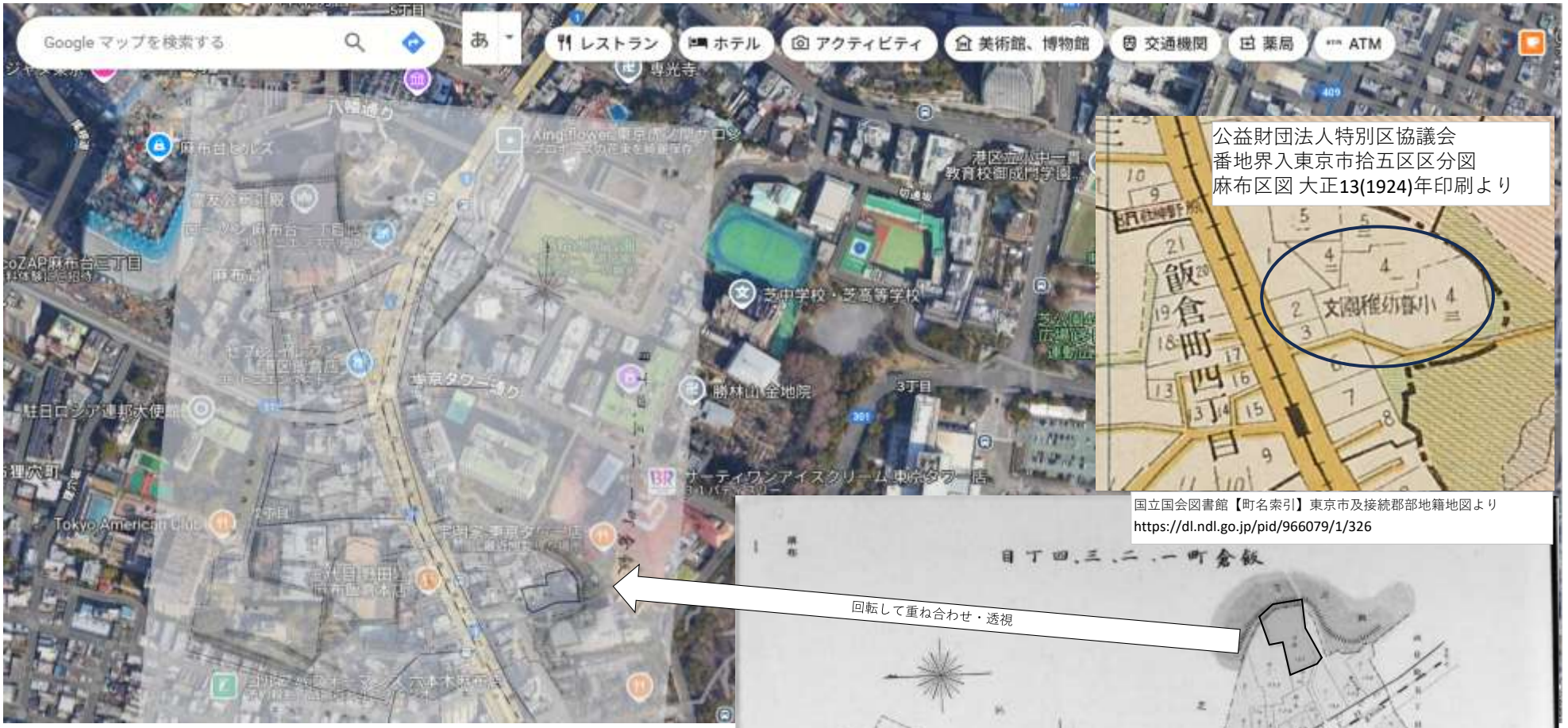

公益財団法人特別区協議会
番地界入東京市拾五区区分図
麻布区図 大正13(1924)年印刷より

国立国会図書館【町名索引】東京市及接続郡部地籍地図より
https://dl.ndl.go.jp/pid/966079/1/326

回転して重ね合わせ・透視

UECコミュニケーションミュージアム　電気通信大学６０年史

https://www.museum.uec.ac.jp/60th-anniversary/zenpen/ch02-3.html

12月7日麻布区飯倉町4丁目4番地に「電信協会管理無線電信講習所」の標札を掲出。

第1回募集広告を予定新聞紙に掲載。次回より広告すべき新聞紙中、都、萬朝報を廃し、日々、国民を之に代うることとする。

1918年（大正7年）12月7日、電信協会管理無線電信講習所が開設された。

12月13日午後1時より、理事会を開き、募集学生の件に関し種々協議した。

12月20日午後2時より理事会を開き、

> 一、第1回応募者中、中学校卒業生に対し学科試験を省略するも差支なき事。
> 一、在学中3ヶ月の兵役あるものの応募申請は受理する事。

12月23日、本会事務所を麻布区飯倉町4丁目4番地に移転した。

東京都港区HP「麻布未来写真館～次世代へつなぐ麻布の記憶～」麻布にあった大学（駒澤大学・電気通信大学）より

トップページ > 麻布地区総合支所 > 暮らしの情報 > 麻布地区総合支所が独自に取組む事業（地域事業） > 麻布未来写真館～次世代へつなぐ麻布の記憶～

https://www.city.minato.tokyo.jp/azabuchikusei/mirai/documents/07_rekishibunka03.pdf

昭和43年（1968年）頃：広尾病院から南麻布四丁目（天現寺橋交差点）を望む

国立電気通信大学

大正7年（1918年）、国立電気通信大学、（通称：電通大）のルーツとなる電信協会管理無線電信講習所が麻布区飯倉町4丁目4番地（東京タワーの西側の脚付近）にあった小暮幼稚園の2階に創設された。当時、無線通信士の育成をめざしたその場所が、いま首都圏の電波を預かる要所になっている偶然は面白い。

電信協会管理無線電信講習所の前身「帝国無線電信講習会」は、安中電機製作所（現アンリツ（株））が大正5年（1916年）、港区の自社工場内に開設した。安中電機製作所は天現寺橋交差点そば、現在のニュー山王ホテル付近にあった。

写真提供：豊田幸雄氏

2025.3.29現在の様子

写真1. 東京タワーより望む母校発祥地_小暮幼稚園跡地の様子
（写真中央左の心光院および墓地）

(参考図)1924年当時の小暮幼稚園周辺の地図と現在の様子
（写真1を地図に合わせて回転させたもの）

写真2 . 小暮幼稚園跡地に建つ心光院表門

写真3 . 小暮幼稚園跡地に建つ心光院の境内